

門田副委員長（自民会議）

平成 27 年 3 月 4 日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）「課題解決型」学習に係るこれまでの成果について

社会や地域のどこにおいても、リーダーは必要であり、そういう人材を小さい時から育てていくことは、取り組まなくてはならない大事なことである。

リーダーに求められる資質・能力を身に着けさせるために、これまでも授業改善を意欲的に進め、課題解決型の学習に取り組んできて、一定の成果の蓄積があると思う。

今回、「学びの変革」アクションプランに基づき、「何を知っているか」という知識の習得を重視したものから、新たな教育にステップアップしようとする中で、これまでの成果を、今後の取組につなげていくことが重要になると思うが、「課題解決型」学習に係るこれまでの取組の成果について、教育長に伺う。

（答）

これまでの課題解決型学習の取組といたしましては、例えば、

- ・ 総合的な学習の時間のゴールとして卒業研究を位置付け、高度な論文作成の指導をとおして課題解決力を育成している事例
- ・ 詩の創作などの創造的な活動をとおして、自己の在り方や生き方を深く考察させている事例
- ・ 「地域の活性化」を課題研究のテーマとして設定させ、生徒自ら発案したことを具体的なアクションにつなげている事例

などがあり、これらの取組により、生徒が自ら学ぼうとする意識や自己の生き方・進路に関する意識が高まるなど、生徒の主体性が育成されつつあると考えております。

このような実践の成果につきましては、次年度からスタートする「課題発見・解決学習推進プロジェクト」の指定校において取り組むカリキュラム開発等においても、大いに参考になるものと考えております。